

第80号 通巻15巻 第1号
1995年 5月 1日 発行

守山市立埋蔵文化財センター
☎0775-85-4397

〒524-02
守山市服部町2250番地

五月^{さみだれ}雨の季節、田んぼには水が張られ、水面には風そよぐ真^{みずも}つ青な空^{うつつ}が映っています。新年度を^{むか}迎え、センターが新たにスタートしました。

☆ 着任あいさつ ☆

埋蔵文化財センターの敷地^{しきち}に立^たって麓^{かすみ}たなびくはるか遠く南の方を見るともな^{なが}眺^{なが}めっていると、いにしえ人が^{あらわ}現れ話しかけてくる幻影^{げんえい}に誘^{さそ}われます。ここは、そういうことを感じさせる土地であります。

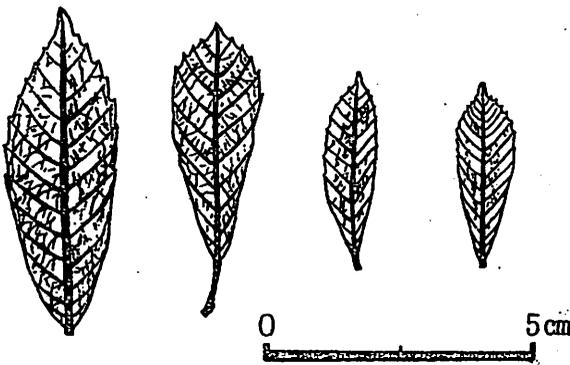
守山市の市域で最近調査した遺跡からだけでも数多くの全国的レベルのものが出土^こして、これらは考古学^{こがくしじょう}史上重要なものであり、重要な文化遺産^{ぶんかいざん}であります。この点で多くの学者や一般の人達が全国各地から訪^{おとず}れています。しかし、守山に住む人に、もっと多く埋蔵文化財を目で見、肌で感じ、正しく理解して貰^{もら}いたいのです。そして共有の文化財を大切に保存し、文化の向上に役立ててまいりたいと考えます。わがまち守山は、歴史と伝統のある誇^{ほこ}り高いまちです。先人の^{くろう えい ち かんしや}苦勞と叡知に感謝し、わが郷土^{きやうど}を愛し、育^{はぐ}んでいきたいと思ひます。こうしたことを踏^ふまえ埋蔵文化財センターは、埋蔵文化財を通して市民の皆さんに守山の豊かな歴史と文化の香りにより一層親しんで戴^{いた}けるよう活動してまいりたいと思ひます。

市民の皆さんのご理解とご指導^{しどう}、ご援助^{えんじよ}をお願い致します。

守山市埋蔵文化財センター 所長 芝原 稔

【今から約2000年前の樹木の葉】

これらの葉は、下之郷遺跡の環境の底から多量の弥生土器とともに出土したものです。出土した時には、今まで生えていたように緑色をしているものもありましたが、空気にふれるとアツという間に土色に変化してしまいます。まるで浦島太郎の物語のようです。



☆ 新人紹介 ☆

この4月から埋蔵文化財センターに発掘調査の専門職員が4人配属され市内の文化財調査に従事することとなりました。

木村 佐智子 調査員

早いもので初めてセンターに足を踏み入れてから、もう1ヶ月が過ぎようとしています。その間に、いかに自分が学生生活をのほほんとして過ごしていたか思い知らされました。ここで、心機一転、社会人としての自覚をもち、仕事にあたらうと思っています。現場に出ますので、見かけたら気楽に声をかけてください。

佐々木 勝 調査員

昨年度までは大学という特異社会の中で4年間を過ごしていました。これが、滋賀県守山市という地域社会を見つめ、またその中で自分自身を見つめながら、地域の中の自分を少しずつ作りあげていきたいと思っています。

杉原 美智久 調査員

こんにちは杉原です。今回の新人の中で一番の最年長となっておりますが、それは年齢上の尺度にしかすぎません。すべてが初めての環境の中、なすべきことさえも未だ十分理解出来ずにいる自分に憤りを感じております。自分の「尺度」でモノに触れ、感じ、考える。そして新たな「尺度」を構築する。こうした一連の作業を通じて、職場の中での自分らしさ、また自分の場というものを見つけていきたいと思っています。

藤原 恵美 調査員

私が発掘に興味を持ったのは高校生の頃でした。あれから10年近くになりますが、実際に発掘作業に参加するようになるなんて、不思議な気がします。これから、日々の新たな発見や人との出会いを大切にして、一つでも多くのことを吸収していきたいと思っています。

☆ 発掘調査だより ☆

SSS SSS SSS 調査終了 SSS SSS SSS

1. 下之郷遺跡

調査地

下之郷町集落内

調査期間

12月8日 ~ 3月20日

調査面積 2,040 m²

調査実施の理由 公共下水道工事（立会調査）

今回の調査は、深さ2m下に下水管を通していく工事に合わせ立会調査をしました。工事で掘削される範囲は狭いのですが、町内の人家が密集する地域の里中道を網目のように掘り進むため、遺跡の広がりや分布の仕方について新しい発見がありました。主な成果を箇条書きにしますと次の通りです。

① 下之郷遺跡では、遺跡の南端において弥生時代中期後半（今からおよそ2000年前）の環濠（ムラの周りに掘られた濠）が以前に見つかっていましたが、今回の調査では、その北側の環濠が3条並ぶかたちで見つかりました。

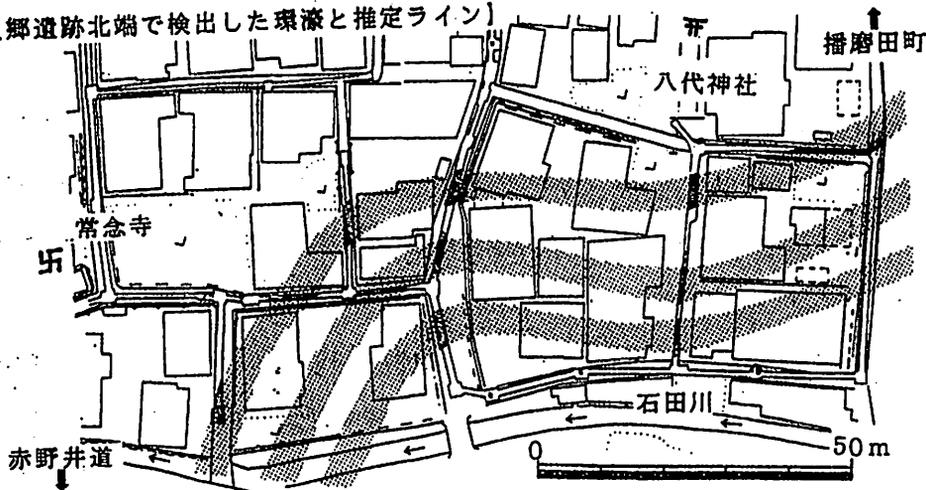
② 見つかった3条の環濠は、深さがいずれも2m近くあり、その中から出土した弥生土器には各々少し時期差があり、内側、外側、中央の順に埋もれた可能性があります。

③ 環濠集落は、南北で直径約250mの規模であることが推測されます。

④ 今回見つかった環濠のさらに北側約100mの地下1.5mで昔の水田跡と思われるものが確認されました。詳しい時期は不明ですが、下之郷遺跡に伴う弥生時代の水田跡が発見される可能性がでてきました。

⑤ 今回見つかった3条の環濠からは、土器、石器、木器の他に植物遺体（種子、果実、原木等）が出土しました。出土した樹木の葉を地点別に100枚程調べましたが、そのほとんどがカシヤシイで、環濠集落の周辺にはかなり広い範囲で照葉樹林が広がっていたと思われます。（概イラスト）（川畑）

【下之郷遺跡北端で検出した環濠と推定ライン】

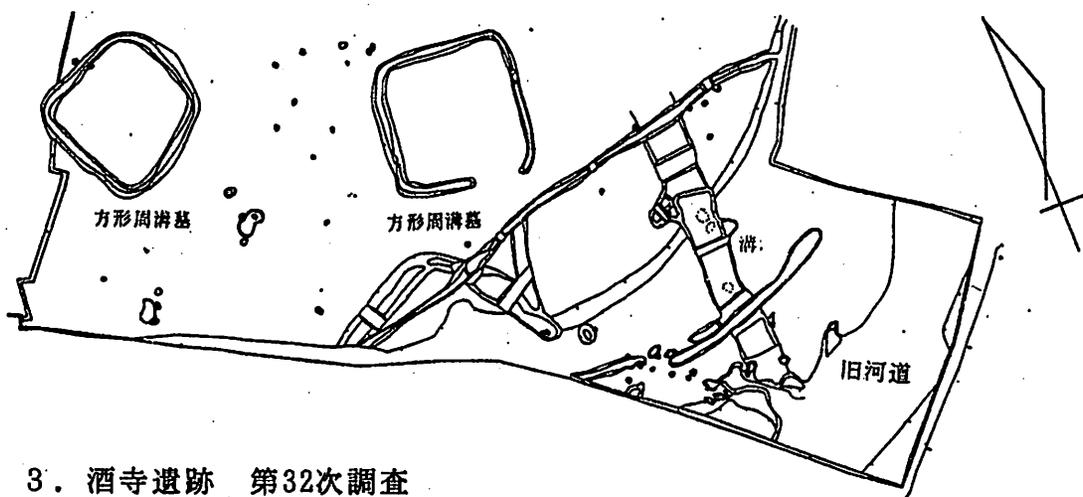


SSS SSS SSS 調査中 SSS SSS SSS

2. 伊勢遺跡 第28次調査

調査地 伊勢町字南東浦 84-1 他
 調査期間 4月13日 ~ 5月31日 (予定)
 調査面積 約 2,000 m²
 調査実施の理由 土地区画整理

昨年度から^{ひいぞく}継続して調査を進めています。これまでに前号で報告した^{ほうけいしゅうこう}方形周溝墓群の東側で幅約3mの溝が見つかっています。溝からは弥生時代後期の土器が多量に出土しています。溝の西側では、^{きよじゅういき}竪穴住居など生活の跡は検出されておらず、この溝が^{ほいき}居住域と墓域を分けていた可能性があります。(小島)



3. 酒寺遺跡 第32次調査

調査地 播磨田町平成の里 3114
 調査期間 4月18日 ~ 5月19日 (予定)
 調査面積 約 250 m²
 調査実施の理由 個人住宅建築

S = 1 / 500

現在調査中ですが、調査区の西半で弥生時代後期の住居跡と思われる遺構が見つかっています。また東半では、以前に調査された古墳時代前半の方形周溝墓の西半分が検出されましたが、後世の^{まくへい}削平のため、^{まいきょうしせつ}埋葬施設は確認出来ませんでした。しかし^{ふんきゅう}墳丘の^{もりど}盛土がないため、方形周溝墓が造られる以前の弥生時代後期の^{どこう}土壌が検出され、その中より他地域で作られたと思われる土器が出土しています

(佐々木)

4. 下之郷遺跡

調査地 下之郷町字シノ
調査期間 4月20日 ~ 4月28日
調査面積 約 900 m²
調査実施の理由 個人住宅建築

調査をはじめたばかりですが、弥生時代後期の^{たてあなじゅうきよ}竪穴住居が見つっています。竪穴住居は方形プランで一辺およそ4mの規模とされます。また、住居内からは、弥生時代後期中葉の土器が出土しています。(伴野)

5. 吉身西遺跡

調査地 守山町字南高田
調査期間 4月21日 ~ 5月31日(予定)
調査面積 約 730 m²
調査実施の理由 共同住宅建築

今回の調査は、守山^{けいさつしよ}警察署と県立成人病センターの間に広がる区画整理地内の一角で実施しています。現在、方形周溝墓2基と溝1条が見つっています。いずれの遺構も区画整理事業に先立ち実施した昭和61年の調査で部分的に発掘され、弥生時代中期であることが分かっています。前回調査された2基の方形周溝墓は、深さ約1mの周溝から多くの弥生土器が出土していますので、今回もその出土が期待できます。次号で^{しやうさい}詳細を報告します。(岩崎)

6. 吉身西遺跡 第65次調査

調査地 守山町字南高田 1303
調査期間 4月20日 ~ 4月29日(予定)
調査面積 約 183 m²
調査実施の理由 共同住宅建築

本調査地では、生活跡が2層からなり、上層では古墳時代後期の溝と柱穴が見つかりました。柱穴は^{ふきそく}不規則な配置で、建物が建つという印象は受けませんでした。この下の層の発掘では、幅約1mの溝や柱穴などが少し見つかりました。

(木村)

☆ 文化財調査の窓 ☆

『考古学入門』

一昨年、市内の子供（小学生）が河川の中から、土器を多量に拾ったことが新聞で報道された。児童にとっては考古学入門の瞬間であったと言える。その後、伝聞でしかないが、学校では、河川へ行くことを禁止したらしい。教育の専門ではないので、その禁止がどういう効果を目的としたものか判断はできないが、好意的にみれば、河川は水かさが増すと、危険なので生命を守るために行くなと言われたのだろう。しかし、禁止という言葉だけで何のフォローもなければ、「EDUCATION」＝「引き出す」行為がなされず、「教育」を放棄したことになってしまうのではないかと考えられる。センターには数多くの子供が訪れる。「埋蔵文化財」と言うむづかしい言葉よりも、歴史に触れる機会を大切に、考え、経験するという場面を特に子供に提供してゆきたいと思う。また遺跡の発掘現場の成果を説明会という形で行なっているが、近年、年輩の方の割合が増加していることに気がつく。ある程度時間の余裕ができ、自分の時間を積極的に使おうとする姿勢だと思われる。会社などの勤務から、あるいは子供の世話から開放された時に考古学へ入門されたわけだ。柔軟な姿勢で判断し、考えられていて、専門書も読まれている。もっと入門される方を増やすために、努力したいと思っている。

☆ お知らせ ☆

埋蔵文化財センターの休館日が4月より変更されました。

→ 休館日は、『毎週火曜日』と『祝日の翌日』が休館となります。

これからは、土曜日、日曜日も開館しておりますので、子供との語らいの場として、郷土の歴史を学ぶ場として、気軽にご来館下さい。

◆ 近隣博物館の催し ◆ (守山市内出土の土器や玉製品などが展示されています。)

滋賀県立安土城考古博物館 春季特別展 『祭と政』

————— 古墳時代のまつりのかたち —————

4 / 29 (祝) ~ 6 / 4 (日) 午前9時30分~午後4時30分

野洲町立銅鐸博物館 春期企画展 『滋賀の石器時代』

4 / 29 (祝) ~ 5 / 31 (水) 午前9時~午後5時